

全身性強皮症における抗MMP-1抗体、抗MMP-3抗体について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-05-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Nishijima, Chihiro メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00061111

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



全身性強皮症における抗MMP-1抗体、抗MMP-3抗体について		Research Project
		All ▼
Project/Area Number	15790571	
Research Category	Grant-in-Aid for Young Scientists (B)	
Allocation Type	Single-year Grants	
Research Field	Dermatology	
Research Institution	Kanazawa University	
Principal Investigator	西島 千博 金沢大学, 医学部附属病院, 助手 (70324118)	
Project Period (FY)	2003 ~ 2004	
Project Status	Completed (Fiscal Year 2004)	
Budget Amount *help	¥3,100,000 (Direct Cost: ¥3,100,000) Fiscal Year 2004: ¥500,000 (Direct Cost: ¥500,000) Fiscal Year 2003: ¥2,600,000 (Direct Cost: ¥2,600,000)	
Keywords	全身性強皮症 / 抗MMP-1抗体 / 抗MMP-3抗体	
Research Abstract	Human recombinant MMP-1,MMP-3を用いたELISA法により、全身性強皮症(以下SSc)血清中の抗MMP-1抗体価および抗MMP-3抗体価の経時的変化を評価した。抗MMP-1抗体価は、全経過を通じて変化することはなかった。抗MMP-3抗体価は、病初期高値を示し、経時的に低下する傾向が認められた。しかし、経過中肺線維症の増悪など病勢の増悪を認めた例においても病勢増悪を反映するような抗体価の再上昇は認められなかった。また、間質性肺炎のマーカーとして知られているKL-6,SP-Dの値との相関も認められなかった。皮膚硬化の指標であるmodified Rodnan total skin thickness scoreは経時的に低下しており、有意ではないが、抗体価と皮膚硬化は正の相関を示す傾向が認められた。炎症の程度を表すCRPなどの値と抗体価の間に相関はなかった。抗topoisomerase-1抗体などその他の自己抗体の抗体価とも相関を示さなかった。 従って、抗MMP-1抗体価は経時的変化を示さず、抗MMP-3抗体価は経時的に低下する傾向が認められた。しかし、後者も病勢に比例して上昇する傾向は認められなかった。従って、抗MMP-3抗体は病初期に何らかの形で病態形成に関与している可能性が考えられた。	

Report (2 results)

- 2004 Annual Research Report
- 2003 Annual Research Report

Research Products (1 results)

		All 2004
		All Journal Article
[Journal Article] Autoantibody against matrix metalloproteinase-3 in patients with systemic sclerosis		2004 ▼

URL: